

Ⅱ 博物館事業の概要

1. 常設展

常設展示を構成する資料表

区 分	実物資料 標 本 類	ジオラマ 機器模型類	カラー透視写真 および写真	図 板	計
地 学	680	22	13	28	743
生 物	1,277	4	29	37	1,347
考 古	692	4	6	22	724
民 俗	235		20	17	272
美 術	延 109				109
史 料	延 81		19	5	105
計	3,074	30	87	109	3,300

(1) 地学展示室 (258 m²)

- ・本県の地形と地質の全貌と特徴を各種の模型で展示。
- ・県内の地質時代の出来事を岩石の分類と偏光投影観察装置を使用し解説。
- ・各地質時代の化石（三葉虫、アンモナイトほか県内外の化石）。
- ・古生物を中心にした各地質時代の景観復元ジオラマ。7景。
- ・鉱物の特性を結晶系と化学組成分類にて解説、また県内外の有用鉱物を鉱床と関連づけて展示。
- ・温泉の地下地質と湧出する機構を示す模型。
- ・紫外線の照射による蛍光鉱物の発光実験。
- ・各種ウラン鉱物の展示と放射能測定の実験。
- ・砂丘と大山の地質的特徴とその生成発達の解説展示。



地 学 展 示 室

(2) 生物展示室 (257 m²)

- ・大山と砂丘の生物の垂直および水平分布とその特性。
- ・岩礁の生物の生態と分布（ジオラマ）。
- ・中国山地の代表的な植生景観と動物の生態展示（ジオラマ）。
- ・頭足類、甲殻類、魚類の分布解説と分類展示。
- ・オオサンショウウオの卵から成体までの発育過程と飼育展示。
- ・鳥類の生息環境による分類と生態と鳴声を映像による解説。
- ・県内産のけものをはじめ外国産の鳥獣。
- ・貝類の生息環境による分類とくに、海産は南方、北方などの海域別に展示、ほかに陸産、淡水産。
- ・昆虫の分類展示（チョウ、ガ、甲虫、セミ、トンボなど）。
- ・植物の分類展示（樹幹、帰化植物、シダ、海藻、およびキノコ）季節による入れ替え。

(3) 考古展示室 (258 m²)

- ・縄文時代の遺物（土器、石器、骨角器）と生活の解説展示。
- ・弥生時代の遺物と時代編年および文化交流などの解説展示。
- ・古郡家一号古墳をはじめ古墳の一括資料の展示。
- ・県内出土の須恵器を時代編年ごとに分類展示。

- ・古墳時代の生活用具の復元展示（かまど三点セットなど）。
- ・県内出土の代表的はにわ（鹿、家、水鳥ほか）の展示。
- ・銅鏡、各種玉類、武具、馬具などの展示。
- ・古廃寺出土の軒丸瓦、仏足、経塚出土の経筒などの展示。
- ・「古代の窓」県内遺跡の発掘調査の概要や出土品による紹介展示。

(4) 民俗展示室（257 m²）

- ・江戸時代末から明治時代にかけて分布した広間型農家の一部を復元し、生活用具を配して展示。
- ・芸能娯楽用具として、人形芝居、きりん獅子、郷土玩具、影絵などの資料を解説展示。
- ・県内の特徴的な生産用具として海女、機織、製紙、木地をとりあげ、それに使用された用具を中心として解説展示。
- ・灯器、発生史的分類により初期の電球までを展示。
- ・日用品、交易、化粧、食器、その他日用品の分類展示。
- ・つのだる、婚礼に使用された各種つのだるとほかい等。
- ・年中行事、県内の代表的な民俗行事を写真と資料によって季節ごとに紹介。

展示日誌

- 4.6 民俗 「年中行事」まんどう、虫送りのカラーコルトン、もひとり神事、赤碓の夏祭、この日の写真を展示
- 6.29 考古 「古代の窓」大山山麓（名和町内）出土の石器12点、パネル4点展示。
- 9.28 民俗 「年中行事」荒神祭、お日待ちのカラーコルトン、しめなわ作り、丑舌祭の写真を展示。
- 9.30 生物 コウボウムギを撤去、ハマヒルガオを展示。
- 3.26 民俗 「年中行事」虫送り、万灯のカラーコルトン、神崎神社夏祭、もひとり神事の写真を展示。
- 3.29 考古 東郷町高辻出土子持勾玉ほか8点、気高町浜村出土くし歯形勾玉ほか2点を展示。

(5) 美術展示室（260 m²）

- ・彫刻…平安時代から鎌倉時代の国、県指定の仏像を主として展示。
- ・絵画…鎌倉時代以降の仏画、江戸時代の鳥取藩絵師等の掛幅、屏風を展示。毎月1回展示替えを行なっている。
- ・書跡…重要文化財の金字法華経、卷二・四を展示。
- ・工芸…奈良時代以降の国、県指定の工芸品、刀装具などのほか、陶磁器では江戸時代の郷土陶器及び県内に伝わる中国陶磁器の将来品を展示。
- ・特別陳列…八頭郡八東町新興寺所有の古文書、仏画、仏像、経塚出土器、宝篋印塔などを一括展示。

（昭和51年5月29日～6月27日）

美術常設展示室 出品目録 ◎重要文化財 ○重要美術品 ●保護文化財

〈絵画〉

土方稲嶺	遊鶴図	六曲屏風一双	江戸	個人蔵
◇	猿之図	◇	◇	◇
◇	猿之図	三曲屏風一双	◇	◇
◇	蓮池遊鯉図	軸装	◇	◇
◇	鯉之図	◇（対幅）	◇	◇
◇	葦間潜鯉図	◇	◇	本館蔵
●	◇	◇	◇	個人蔵
◇	牡丹孔雀図	◇（双幅）	◇	◇



月光菩薩像 長楽寺

黒田稲卓	花島図	六曲屏風一双	江戸	個人蔵
●	〃	游鯉図	〃	〃
島田元旦	東海道々中図	〃	〃	個人蔵
●	〃	花島図	〃	〃
小畑稲升	群鯉図	〃	〃	〃
根本幽峨	桜閣山水図	〃	〃	〃

《仏画》

紙本	十二天画像	室町	智頭町豊乗寺	紙本	涅槃図	江戸	八東町新興寺
絹本	五大明王画像	鎌倉	用瀬町大安興寺				

《仏像》

◎木造	蔵王権現立像	平安	三朝町三仏寺	木造	延命観音像	室町	八東町新興寺
◎	〃	〃	日野町長楽寺	〃	薬師如来坐像	鎌倉	〃
●	〃	〃	若桜町永福寺	○鉄造	十一面観音立像	〃	西伯町加祥区
〃	蔵王権現立像	鎌倉	岩美町観照院	○	〃	〃	〃
〃	女神像	平安	三朝町三仏寺	〃	光背（仏身欠）	〃	〃

《書跡・工芸》

◎紙本	金字法華経	鎌倉	鳥取市大雲院	●青磁香炉	元代	関金町地藏院
	新興寺文書	南北朝	八東町新興寺	青磁皿		個人蔵
●擬宝珠		南北朝	関金町地藏院	青磁香炉		〃
●銅罌口		室町	国府町清泉寺	白磁小皿・壺	宗代	八東町新興寺
●梵鐘		南北朝	岩美町網代地区	青磁盤	明代	個人蔵
◎銅鏡		平安	三朝町三仏寺	青磁香炉	〃	〃
	懸仏	鎌倉	個人蔵	因久山焼 茶碗	江戸	〃
●飾太刀拵（二口）		江戸	鳥取市髭谿神社	〃 茶碗	〃	〃
				〃 陳笠型鉢	〃	本館蔵

《その他》

宝篋印塔	南北朝	八東町新興寺	経塚出土品	平安～鎌倉	八東町新興寺
------	-----	--------	-------	-------	--------

(6) 史料展示室（111m²）

51年度の展示は、前年度からの「開国と鳥取藩」(51年1月～51年6月)につづいて、「堀庄次郎―鳥取藩幕末の志士」(51年7月～52年4月)をとりあげた。

堀庄次郎は、鳥取藩尊王攘夷派の中心人物であり、彼の言動は幕末の鳥取藩の動向に大きな影響を与えた。堀家は代々藩の儒者であり、藩校の先生であった。12代藩主池田慶徳を水戸から迎えて、幕末の藩政改革が始まる。庄次郎も学制改革の担当者として藩政に参加する。田村貞彦、安達辰三郎、津田伝兵衛、中野良助らと改革派を形成し、尊攘運動の中心になる。

庄次郎は、元治元年の政争により急進尊攘派の二青年によって暗殺されるが、展示では、庄次郎の建白書、日記等の遺稿や、同志との間にやりとりされた手紙を中心に展示し、鳥取藩尊攘運動の大まかな流れを展開した。また堀家ゆかりの人々の中には能書家が多い、中でも省齋、樸齋、大洲は著名であり、それぞれの書を展示した。本展示では、庄次郎を暗殺した沖剛介の遺書と日記を同時に展示した。

◎新着資料展示コーナー

分野	テーマ	期間	内容
民俗	提重	4.1～5.7	蒔絵提重1点
地学	寄贈を受けた鉱物	5.8～6.6	方鉛鉱、黄銅鉱、磁鉄鉱等12点
生物	ヤイロチョウ	6.7～7.5	ヤイロチョウの剥製標本4点
民俗	海草をとる用具	7.6～8.3	サテ2点、ワカメじょれん1点 テングサとり1点
生物	熱帯地方の貝	8.4～9.5	インドネシア産の貝7点
生物	秋のキノコ	9.6～10.30	キノコの模型4点
生物	ズワイガニ	11.1～12.5	ズワイガニの図板4枚、ズワイガニ標本4点
生物	マガン	12.7～1.7	マガンの剥製標本1点、生態写真1点
地学	サメの歯の化石	1.8～2.11	メジロザメの歯の化石1点 外国産のサメの歯化石8種
民俗	冬の履物	2.12～3.24	ふんごみ2種、つまご1点、かんじき1点
民俗	木地製品	3.26～	盆1点、丸膳1点、椀2点

◎催物

(1) 郷土に伝わる仏画展

会期 昭和51年6月22日～7月11日

会場 第3展示室

仏画は、わが国では平安初期に中国に渡った最澄、空海らの入唐僧が大量の経巻や仏画を伝え、以後それらを手本にして盛んに描かれはじめた。空海らの伝えた密教では、修法に画像を必要としたことなどもあり、密教の盛行に伴って多く描かれ、現存する仏画の中で密教関係の画像の占める割合は大きい。一方、インドや中国とは異なる浄土教の仏画や、我国独自の垂述の仏画などもあり、極楽世界の実感を与えるものとして描かれ、仏教の興隆に役立てられた。

本県の仏画も真言宗の寺をはじめ古寺に多く伝えられ、普賢菩薩像(豊乗寺)は国宝に、楊柳観音像(豊乗寺)、普賢十羅刹女像(常忍寺)は重要文化財に指定されている。

当館は県内の諸寺院から多くの仏画の寄託を受けており、それらを中心に平安時代から、鎌倉、室町、江戸の各時代にわたる涅槃図、菩薩図、両界曼荼羅図、五大明王図、不動明王図、愛染明王図、護法十二天図、真言八祖図、来迎図、十界図など、46点を展示した。

(2) 博物館資料 鉱物展

会期 昭和51年7月27日～8月18日

会場 第3展示室

開館以来、当館に寄贈および寄託された鉱物標本のうち特に故大西万次郎氏(元早大講師姫路市出身)、コレクションを中心に本邦産鉱物の特徴を紹介し、その結晶形や色彩などを通じて鉱物への関心と認識を深めるようにした。展示点数約600点。

- 大西万次郎氏コレクション……同氏が、大正年間から昭和20年代に至る約40年間に収集された標本で、現在は絶滅産となった双子水晶、自然金、三角黄銅鉱などを含む日本特産鉱物(550点)
- 有用鉱物(鉱石)など……日本各地の有名鉱山より産出した鉱石(金、銀、銅、鉛などの鉱石)と随伴鉱物など(40点)

○鳥取県岩美鉦山の採掘用具……同鉦山が閉山するまでに利用されていた諸用具のうち特に機械化されない手掘り用具（10点）

(3) 発掘展 因伯の古代を掘る

会期 昭和51年8月24日～9月12日

会場 第3展示室

近年の発掘調査の中から「因伯の国府・国分寺・国分尼寺」等を取りあげ、遺構の状況や出土遺物等とおして奈良時代の郷土の一端を紹介するとともに埋蔵文化財への認識を高める。展示点数300点

○因幡国府……杯、皿、文字瓦、古銭など

○伯耆国府……墨書土器、硯、高杯など

○因幡国分寺……かまと片、軒丸瓦など

○伯耆国分寺……風鐸、鬼瓦、軒丸瓦など

○伯耆国分尼寺……墨書土器、壺など

○国府周辺の歴史……各古廃寺の瓦類など

○調査の記録……調査報告書、写真類など

○その他……地図、実測図など

(4) 失われた漁具展

会期 昭和51年11月14日～11月28日

会場 第3展示室

戦後、漁船や漁具は次第に機械化され、古い型の漁具や漁法は急速に失われているとき、かつては本県の各漁村でみられた釣り針や網、貝がら節で有名なイタヤガイを採った「貝じょれん」をはじめ、今は全く消滅した「かがり」「イカとりランプ」などの集魚灯など約100点を展示し、これを通じて、伝統的な漁民の生活や習俗を紹介した。

(5) 公募科学写真展

会期 昭和52年3月13日～3月27日

会場 第2展示室

自然破壊の進行している今日、本県にはまだ自然本来の姿をとどめているところが多く、いろいろな自然の営みに触れることができる。今回は写真によって、その一端を紹介するべく広く公募し自然への関心と認識を深めることを目的として開催した。応募者28名、応募点数156点。

○野鳥の生態……48点

○昆虫の形態生態……26点

○軟体動物……10

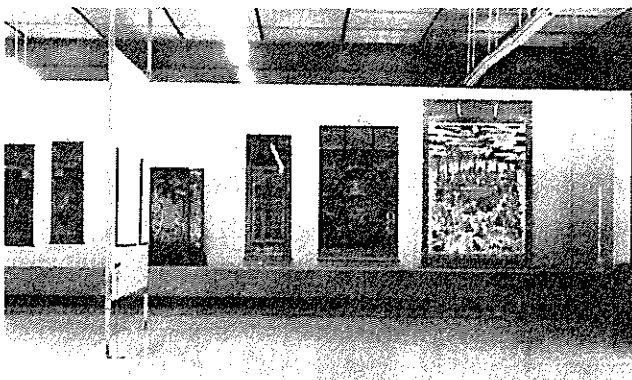
○クモの生態……5

○植物の形態・群落……31

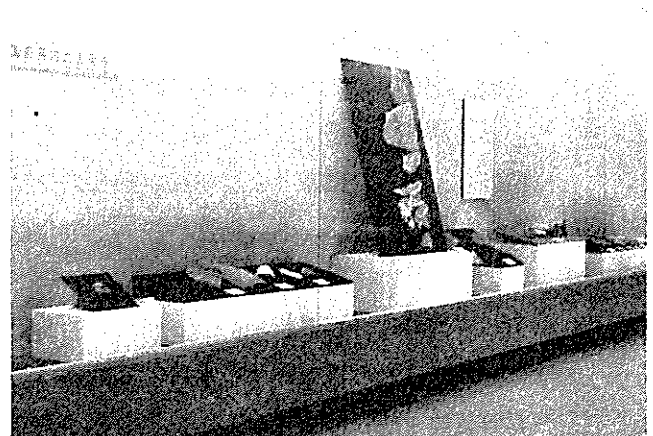
○地層・岩石の産状……6

○天体（星座、星団・雲など）……14

○特別出品・南極の自然……16



郷土に伝わる伝画展



発掘展 因伯の古代を掘る

2. 特別展（館主催）

(1) 世界の貝 — その美と驚異 —

主催 鳥取県立博物館

後援 鳥取県市町村教育委員会研究協議会 鳥取県科学教育研究会

会期 昭和51年4月16日（金）～5月30日（日）

会場 第2展示室

入場者 23,348人（有料）

入館料 一般200円（団体150円） 高校生100円（団体80円） 小・中学生50円（団体40円）

貝は動物界で昆虫に次いで種類が多く世界に11万種以上が生息しており、日本近海にも約7,000種が確認されている。生息場所も深海から浅海、湖、河川、陸上と広範囲にわたり、また貝の形や色彩もさまざま、貝ほどその形態や生活様式の多様な動物は他に見あたらない。今回の特別展は貝を通じて自然界の多様性とその中に秘められた法則性に触れながら、人間生活とのかけあひについても解説展示した。

主な展示内容（展示点数 883種 1,350点）

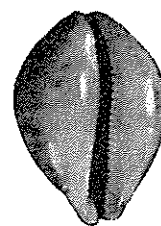
- 特別出品…天皇陛下御採集標本ほか
相模湾産の御採集貝、外国産御所蔵貝など
- 日本初公開の貝…世界的な稀産種シンセイダカラの初公開
- 海の貝
日本近海の貝…世界的に代表的な貝、寺町昭文コレクションなど
熱帯サンゴ礁の貝…重厚で色彩豊かな貝、形態に特異な貝、タカラ貝など
寒帯海域の貝…オホーツク海、南極産など薄質で色彩の単調な貝。
浮遊する貝…大洋を浮遊するオウムガイ、ルリガイなど
マングローグの貝…熱帯浅海泥底の特殊な環境下に生息する貝
- 陸の貝（カタツムリ）
世界各地、とくに熱帯ジャングルにすむ陸貝
- 鳥取県の貝
磯の貝、沖合の貝（イタヤガイ漁に伴出する貝）
陸にすむ貝
- 貝の化石
貝の化石と進化、生きている化石貝、鳥取県の貝化石
- 貝と生活
古代人と貝、食用の貝、貝がらの利用、養殖真珠など



会場風景



背面



腹面



側面

シンセイダカラ

(2) 松方コレクション展

主催 国立西洋美術館 鳥取県 鳥取県教育委員会 鳥取県立博物館

後援 鳥取県各市町村教育委員会 新日本海新聞社 山陰中央新報社 日本海TV放送 山陰放送
山陰中央TV放送 NHK鳥取放送局

会期 昭和51年10月9日(土)～11月7日(日)

会場 第1展示室、第2展示室

入場者 52,296人(有料)

入館料 一般400円(団体300円) 高校・大学生250円(団体150円) 小・中学生200円(団体100円)

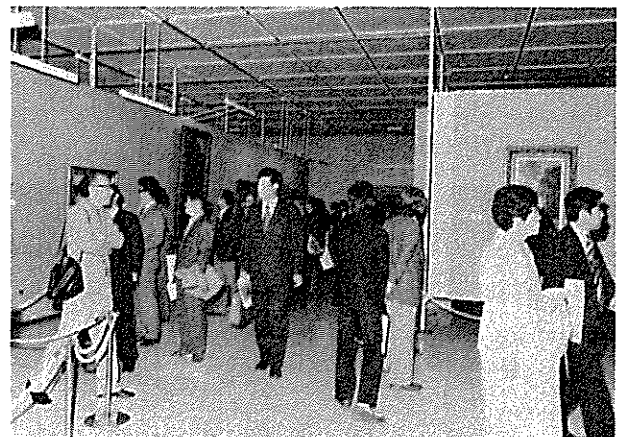
松方コレクションは、川崎造船の社長であった故松方幸次郎氏が西洋美術を日本に紹介するために、第一次大戦前後にヨーロッパ各地で収集した世界的なコレクションである。当時の収集総数は、浮世絵八千余点を含む一万点に近い龐大なものであったが、当初日本に送られた作品は散逸し、ロンドンに保管されていたものも火災により焼失した。フランスには、このコレクションの相当な重要部分が残されていたが、第二次大戦中に接収されフランス政府の管理下におかれた。その後、フランス政府の好意により、360余点の絵画、彫刻が日本政府に寄贈返還され、これを受入れるために建てられた国立西洋美術館で昭和34年初めて一般公開された。

松方コレクションは、19世紀後半から今世紀初頭のフランスの絵画・彫刻を主としているが、今回の展覧会は、このコレクションとその後国立西洋美術館の所蔵となった作品の中から70点の名品を厳選して構成されている。内容はロマン派からフォーヴィズムに至る近代西洋美術の流れを一望できるように配慮されている。

《出品目録》

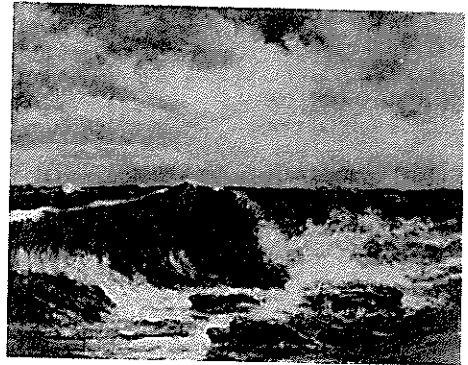
絵画(55点)

- 1 ブラングイン — 松方幸次郎氏の肖像
- 2 フィールディング — ターバット湖
- 3 エッティ — 横たわる裸婦
- 4 ミレイ — あひるの子
- 5 ドラクロワ — 聖母の教育
- 6 コロー — ナボリの浜の思い出
- 7 ミレー — 春(ダフニスとクロエ)
- 8 クールベ — もの思うジブシー女
- 9 クールベ — 波
- 10 クールベ — りんご
- 11 モネ — 並木道
- 12 モネ — ラ・ロシュ・ギエイヨンの道
- 13 モネ — ウォータールー橋(ロンドン)
- 14 モネ — ヴェトゥーユ
- 15 ビサロ — 立ち話
- 16 ビサロ — 冬景色
- 17 ルノワール — 木かげ
- 18 ルブール — セーヌ河(ラ・ブーユ附近)



会場風景

- 19 ロダン — 世界を導くアムールたち
 20 ロダン — ベルローナ
 21 ロダン — ユゴー（顔二つ）
 22 ロダン — カンボジアの女
 23 ロダン — 蛇を巻く男
 24 セザンヌ — 水差しとスープ容れ
 25 セザンヌ — 舟にて
 26 トゥールーズ・ロートレック — 写真家セスコ
 27 トゥールーズ・ロートレック — マルセル・ランデの胸像
 28 ヴァン・ゴッホ — ばら
 29 ゴーガン — 海辺に立つブルターニュの二少女
 30 ドニ — 踊る女たち
 31 ドニ — トンケデッキのテラス
 32 マルタン — 花と泉水
 33 マルタン — 自画像
 34 ローラン — テラスの二人の婦人
 35 シニャック — 漁船
 36 シニャック — オンフルール
 37 ピュヴィス・ド・シャヴァンヌ — 貧しき漁夫
 38 モロー — 聖女チェチリア
 39 カリエール — 母子像
 40 フォラン — お目見え
 41 カロリュス・デュラン — 母と子
 42 ブランシュ — 若い娘
 43 コッテ — ムーラン・ルージュの女たち
 44 コッテ — 悲しみ
 45 ロール — 木かげ
 46 アマン・ジャン — 本を読む女たち
 47 アンドレ — マルセーユのプティ・ニース
 48 デスパニャ — 浴女
 49 ルバスク — ハンモック
 50 マルケ — 坐る裸婦
 51 マルケ — オロンヌの浜
 52 ヴァン・ドンゲン — ターバンの女
 53 ピカソ — 坐る女
 54 フジタ — 裸婦
 55 フジタ — 自画像



クールベ 波



ロダン バルザック

彫刻（15点）

- 56 ロダン — 鼻の潰れた男
 57 ロダン — 青銅時代

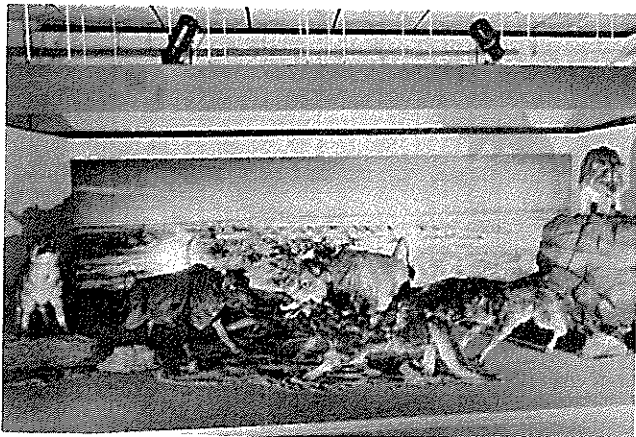
- 58 ロダン — 考える人 (½等身大)
- 59 ロダン — 三人の踊り子
- 60 ロダン — 抱きあう子供たち
- 61 ロダン — ヴィクトル・ユゴー
- 62 ロダン — 接吻
- 63 ロダン — バルザック
- 64 ロダン — ハナコの頭部
- 65 ブールデル — アホロンのマスク
- 66 ブールデル — 弓をひくヘラクレス
- 67 ブールデル — バッカント
- 68 ブールデル — 瀕死のケンタウロス
- 69 マイヨール — 両腕をあげた浴女 (大)
- 70 マイヨール — 《アルモニー》のための習作



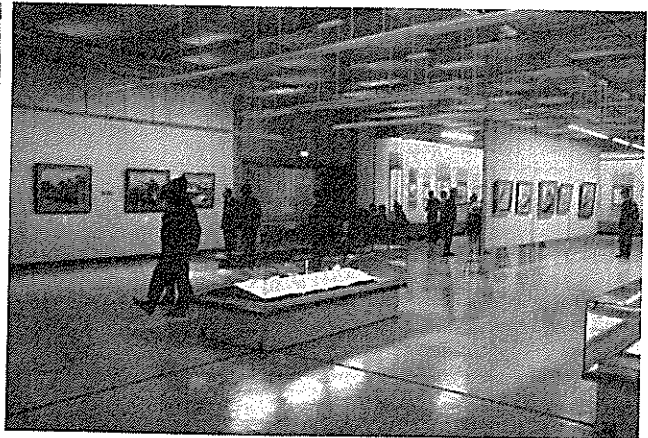
会 場 風 景

3. 館外主催展

展覧会名	期 間	内 容	入館者数	主 催 者
インカ文明と ミイラ展	51. 4. 15 ~ 5. 5	古代アンデスを出土品で紹介	43,284人	読売新聞大阪本社
鳥取大学開学記念展	51. 6. 13 ~ 6. 19	絵画、彫刻、工芸、写真 123点	790	鳥取大学
日本の書展	51. 8. 10 ~ 8. 14	書 約200点	1,318	山陰中央新報社
シートン動物記展	51. 8. 27 ~ 9. 15	絵画、遺品、動物剥製で シートンを紹介	28,138	朝日新聞社
鳥取県美術展	51. 9. 23 ~ 9. 28	絵画、彫刻、工芸、書、写真 425点	5,758	鳥取県教育委員会
鳥取書道連盟展	51. 12. 1 ~ 12. 5	書 180点	713	鳥取書道連盟
鳥取県 高等学校美術展	51. 12. 12 ~ 12. 18	絵画、デザイン、彫刻 158点	458	県高校 美術教育研究会
森田光達遺作展	52. 3. 13 ~ 3. 21	日本画 52点	3,363	鳥取北 ロータリークラブ 鳥取県立博物館
合 計			83,822	



シートン動物記展



森田光達遺作展

4. 教育普及活動実施状況

博物館活動の一環として館内外において、天体観望会、観察・見学会、講座・講演会、映写会を開催した。

事業名	月 日	内 容・場 所	講 師	参加者
天体観望会	8. 7 (土)	夏の星座観望会 当館前庭	当館学芸員	71
	12. 4 (土)	冬の星座観望会 〃	〃	44
見学会 採集会	5. 8 (土)	野鳥の声を聞く会 鳥取市栲谿公園	〃	67
	7. 18 (日)	漁村の民俗を訪ねる会 青谷町・泊村	〃	23
	8. 22 (日)	鉱物採集会 鳥取市百谷鉱山	〃	42
	9. 25 (土)	虫の声を聞く会 鳥取市栲谿公園	〃	54

見学会 採集会	10.9(土)	キノコを調べる会	鳥取市栲谿公園	当館学芸員	30
	10.17(日)	化石採集会	日南町多里地区	〃	40
	12.5(日)	因久山焼見学会	郡家町久能寺	〃	110
	10.3(日)	自然と歴史を訪ねる会	青谷町・三朝町・鹿野町	〃	46
標本の名前を調べる会	8.24(火)	標本の名前を調べる会	当館	〃 外	91
講演会	4.10(土)	鳥取池田家史料の中の絵図類について	〃	鳥取大学名誉教授 徳永 職男	38
	5.5(水)	貝の話	〃	当館学芸員 山本 賢二	80
講座	5.8(土)	カタツムリの話		山陰貝類談話会 谷岡 浩	10
	5.15(土)	山陰沖の貝あれこれ		〃 人江 憲彦	10
	5.22(土)	貝の生態、鳥取県の貝化石		当館学芸員 山本賢二、山名 巖	11
	5.29(土)	貝と人生、貝と民俗		〃 清末忠人、鶴田憲弥	11
	9.4(土)	因伯近世のやきもの		〃 三谷 巍	28
	9.18(上)	やきものの技法		鳥取工業試験場研究員 田中 幸成	27
	9.25(土)	和紙の美 紙すきの技法		佐治村長 上田 礼之 鳥取工業試験場製紙科長 門脇 善昭	19
講座 (小・中学生)	8.5(木)	中学生講座	鳥取砂丘・当館	当館学芸員	53
	8.24(火)	親と子の博物館野外教室	国府町	〃	31
映写会	4.4(日)	生きている海岸線、世界の国々			35
	4.11(日)	暮らしの中の危険ーガスー、恐るべき大気汚染			30
	5.2(日)	大さんご礁の生物			15
	5.5(水)	〃			80
	5.9(日)	〃			80
	6.6(日)	海藻の観察、ジカマキモドキの観察			12
	6.13(日)	河、太陽の家			68
	7.4(日)	太陽の活動、雨粒のできるしくみ			27
	7.11(日)	狂言、平安の四季			20
	8.1(日)	山を語る、火成岩			10
	8.8(日)	火の化学、ミスターシンプレックス腕をふるう			23
	9.5(日)	地球の秘密をさぐる地震学、稲妻を雷鳴			220
	9.12(日)	ロダンの世界			30
	9.15(水)	クロード・モネの世界			40
	9.19(日)	ルノアールの芸術、ロダンの世界、クロード・モネの世界			8
	9.26(日)	ルノアールの芸術、クロード・モネの世界Ⅰ・Ⅱ			33
	10.3(日)	さいはての大陸、黄金の国々			40
	10.10(日)	ロダンの世界			107
	10.11(月)	〃			160
	10.17(日)	〃			230
	10.24(日)	クロード・モネの世界、ロダンの世界			100
	10.31(日)	〃	〃		200
	11.3(水)	〃	〃		110
	11.7(日)	ロダンの世界			200
	11.14(日)	地球の歴史をひもとく大群植物、海へ生活への適応、鳥の飛び方			12
	3.6(日)	技術進歩と人間・省力化への道、森林・北海道の原野			8
3.13(日)	元禄文化、藩校と寺小屋			15	



親と子の博物館野外教室



化石採集会 日南町多里鉦山

資料貸し出し

貸し出し先	期間	資料名	備考
八雲立つ風上記の丘資料館	51. 9. 20 ~ 11. 10	鷗尾(玉鉦廃寺)陶製経筒(箭溪経塚)	山陰の仏教考古展
鳥取県立鳥取東高等学校	51. 9. 15 ~ 9. 21	天体写真 7枚	鳥取東高祭
米子市日原公民館	51. 11. 17 ~ 11. 23	鳥取県の石器時代(石器類) 40点 古代人の動物たち(写真) 10枚 鳥取県の文化財(写真) 15枚	「宗像の里」展
倉吉市立倉吉博物館	51. 6. 1 ~ 7. 7	絵画「棟梁の家族」	常設展 前田 寛治

5. 調査研究活動

調査研究

分野	事項
地学	○鳥取県東部に分布する中新統の鳥取層群に関する調査研究の一環として、貝化石群集から見た古環境の変遷について調査した。(研究報告14号)
動物	○鳥取県産の陸貝標本を採用、寄贈等によって、ほぼ全種類を収蔵し整理した。
植物	○山陰海岸の植物調査の一環として、海藻類の分布と群落について調査した。 (所蔵目録16山陰海岸の海藻)
考古	○民有の考古資料(鳥取市、岩美郡、八頭郡、気高郡)の調査をし、リストを作成した。
民俗	○鳥取県沿岸の漁具に関する調査をした。(所蔵目録17、民俗資料目録)
美術	○八頭郡八東町新興寺の仏像、仏画、文書などを調査し、新興寺資料展を開催した。 ○鳥取県下の仏画資料を調査し、鎌倉時代以降の仏画を中心に仏画展を開催した。 ○特別展「松方コレクション」52年度「日展」「文化庁買上優秀美術作品展」及び常設展示のための資料の調査研究をした。
史料	○池田家資料の日記類、特に万留帳と控帳の検討、堀家史料追加寄贈分の整理をした。 ○銀山村山口家文書の調査、但馬国楞嚴寺文書調査をした。

博物館活動振興方策研究委嘱事業

文部省の委嘱事業として、博物館活動振興方策研究調査事業を実施した。本事業は昭和50年度及び51年度の2か年事業であるが、本年度の実施概要はつぎのとおりである。

研究主題	展示の態様・形式と展示効果の関係	
目的	博物館の展示に対する利用者の反応を測定するとともに意見を聴取して展示効果を高めるための試案を作成する。	
実施主体	鳥取県教育委員会	
研究委員会	教育委員会及び博物館職員並びに学識経験者等 22名	
研究調査	a 対象	1. 博物館利用者 500 名を抽出 2. 利用者代表として学校（小・中・高・大学）側23名を選出 3. 生徒（中学校）学生（大学）126名 4. 県内各市町村より計 3,000 名を抽出
	b 地域	鳥取県立博物館展示室、県内各市町村（町教委、公民館、小学校PTA、各種企業体）
	c 期間	調査 昭51. 8～51.12 研究 昭.52. 1～52. 3
	d 方法	展示利用者の行動追跡と聴取調査、意見聴取会、感想文の収集、各種アンケートによる調査
主要研究調査項目	1. 展示利用者の実態把握………年令、回数、地域 2. 同上の行動追跡による反応測定調査………関心注意（注目）度と展示の態様・形式との関係 3. 学校側からみた博物館利用上の問題点の抽出 4. 生徒・学生による展示に対する感想文の収集と問題点の抽出 5. 分かり易い図板の試案作成のための基礎的調査 6. 県民の博物館に対する意識調査とその対応策	
研究結果の要約	1. 利用者の展示に対する反応は昨年度の調査結果と大差ない。しかし地域的には県外からの入館者の占める割合がや、高くなったこと、また来館の動機に若干の相違があった。 2. 展示の態様・形式と注意度の関係も昨年度と同様であるが、印象づけられる展示と注意度との間には必ずしも相関はない。 3. 学校側から見た展示については、展示資料に幅の広い分野を望むということで昨年度と大差ない。 4. 生徒・学生間には展示資料とその解説に関し、その充実を望む意見が多く出た。 5. 未利用者も博物館に対して比較的正しい近代的な感覚で認識していることがわかった。	
問題点	1. 展示効果については、展示資料の量、質、展示方法、観覧の順路、解説の方法などが微妙に作用しており、これらの展示要素相互の関係と全体的な平衡を考える必要があるように思われる。 2. 展示を通じての幅広い教育活動、とくに特別展のあり方と常設展の分野、範囲などに多くの要望があったが、これの対応策を今後考える必要があろう。	
報告書の発行	昭和52年3月	
備考	委嘱研究事業費 925千円	

研究報告書等の刊行

名	称	規 格	ページ数	部 数
博 物 館 年 報	(昭和50年度)	B 5	28	500
郷土と博物館	第22巻 第1号	A 5	32	1,000
〃	第22巻 第2号	A 5	32	1,000
所蔵資料目録	(隠花植物)	A 5	20	500
〃	(民 俗)	A 5	19	500
研 究 報 告	第13号	B 5	36	500
資料調査報告書	第4集(岩美郡銀山村山口家文書)	B 5	26	300

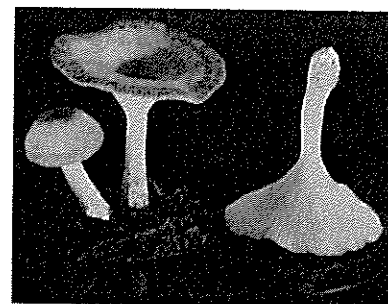
Ⅲ 博物館資料の概況

1. 博物館資料保有状況 (昭和52. 3. 31現在)

区 分	51. 3. 31 現在保有点数	51 年 度 増 加 数				昭和51年度 減 少 数	52. 3. 31 現在保有点数
		購 入	寄 贈	採 集	保管換		
保 有 資 料 の 内 訳	地 学	3,270	16	5	28		3,319
	動 物	11,754	6	205	94		12,059
	植 物	4,249	5	4	124		4,382
	考 古	2,525		1	4		2,530
	民 俗	1,192		26			1,218
	美 術	90		10		1	101
	史 料	28,936	2				28,938
	その他	122					122
合 計	52,138	29	251	250	1	0	52,669

2. 主な購入資料 (昭和51年度)

部 門	資 料 名
地 学	三葉虫 (ホモテラス、ファコプス、ブラックウェルデリア)、 アメリカおよび中国産 テクタイト (宇宙飛来物質と考えられている黒曜石様の塊でぼ うすい状、球状、ドロップス状など) 10個、タイ国産
動 物	カンムリワシ (剥製) 貝標本 (オオジャコガイ、ニッポンダカラ、ナンヨウダカラ、 クロユリダカラ、グロリアマリス)
植 物	キノコ複製品 (オオワライタケ、オニイグチ、カヤタケ、クサ ウラベニタケ、ハラタケ)
史 料	「御使番役用日記」二冊 (文政5年、文政10年) 江戸藩邸におけ る御使番の日記



カヤタケ